

## 処方解説・柴胡疏肝湯

吉村 吉博 先生

東京都豊島区 日本統合医療学園・健康堂



### 【効能】

#### 疏肝解鬱、理気止痛

本方は肝気鬱結を伴う胃腸疾患の代表処方である。ストレスなど精神的な緊張・情緒の変動によって肝気鬱結（脳の興奮過程と抑制過程の平衡失調や自律神経系の過緊張と失調状態）が生じる。肝気鬱結によって生じる自律神経系の失調、肝臓の分泌機能低下により、憂うつ、イライラ、胸脇苦満（胸脇痛）などが生じる。また内分泌異常にともなって月経異常や月経前緊張症、月経痛、冷え症なども起こる。さらに、肝気鬱結によって肝脾不和が生じる。すなわち自律神経系の緊張によって平滑筋の過緊張、蠕動異常による胃腸機能の失調を生じる。

従って、本方は疏肝解鬱によって肝気を疏肝することによって憂うつやイライラ、月経困難を抑制するばかりでなく、付随して起こる肝脾不和の食欲不振や胃の脹痛にも用いる。

四逆は「四肢厥逆」から由来し、手足が冷えることを現している、四逆湯と四逆散とも厥冷（末端から中心部に向かって冷える）の場合に使用するが、両者は構成も全く異なる。四逆散は疏肝解鬱により陽が末端まで行かない冷え症に効果があり、「四逆湯」（乾姜・附子・炙甘草）は陽虚寒盛による冷え性に効果がある。

### 【出典】

景岳全書：明の時代の張景岳（1563～1640）の著書で、全64巻からなる。張景岳は大変「内経」を重視して、「素問」「靈樞」に対して30年余り研究を行い、晩年には個人の豊かにした臨床経験と深くて詳しい理論によって全書をまとめた。

### 【組成】

柴胡、枳殼（枳実）、白芍（芍薬）、炙甘草、香附子、川芎、青皮



## 【処方解説】

基本は四逆散で、これに理気の香附子・活血の川芎を加え、枳実を枳殻に変えたもので、従来よりも理気の効果が強めた処方である。

肝気鬱結・肝脾不和（自律神経失調による情緒の変動・胃腸機能の失調）に対して、柴胡が主薬で、肝気が鬱結したときに肝気の疏肝（自律神経を調整）し、枳実・青皮は脾気停滞を疎通（胃腸の蠕動運動を強める）するとともに柴胡の疏泄を補助する。白芍は柔肝（養肝）、炙甘草は和中緩急で両者によって止痛作用（脳の鎮静や胃腸の鎮痙）を示す。香附子は鎮痛作用をもち、子宮収縮を抑制して月経痛を緩解する。また自律神経系の緊張を緩和し胃腸の蠕動を促進して胸脇痛・腹痛・腹部膨満を除き、柴胡・白芍の効果をつよめる。川芎も鎮静・鎮痛作用があり、血管拡張によって循環を促進し、子宮筋には収縮促進（妊娠子宮には抑制）に働く。枳殻と枳実はほぼ同じ作用をもつが、枳殻の方が効能はおだやかである。

組成	柴胡	枳殻(枳実)	白芍(芍薬)	炙甘草	香附子	青皮	川芎
薬性	苦・微寒	辛苦・微寒	酸苦・微寒	甘・平	辛微苦・平	苦辛・温	辛・温
分類	疏肝	理気	補血	補気・止痛	理気		
効能	解表、疏肝、昇提	理気、寛胸	補血（柔肝）、止血	補気、止痛、止咳	理気、疏肝、調経、止痛	理気、疏肝、消積	理気、止痛、活血
	四逆散（疏肝解鬱）				疏肝解鬱・止痛		
適応症	肝気鬱結・肝脾不和						
	憂うつ、情緒不安定、イライラ、胸脇苦満（胸脇痛）、食欲がない、腹が脹る、便秘・下痢が交互、月経異常（周期が一定しない）、月経前緊張症（乳房脹痛）、月経痛、舌苔薄白、脈弦緩						
病機	ストレス→肝気鬱結→肝鬱化火→肝脾不和→肝気犯胃→食欲不振、胃の脹痛 ↳ 憂うつ、イライラ、胸脇苦満、月経困難、月経痛						
疾患	自律神経失調症、神経症、更年期症候群、神経性胃炎、腹痛、十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群						

## 【中医適応症】

- ①肝気鬱結：胸脇苦満があつて、不安、頭痛、イライラ、抑うつ感など精神神経症状を認める、心窩部の膨満感、月経周期が一定しない、月経痛、月経前に乳房が脹る、舌質は紅、舌苔は黄、脈は弦数
- ②脾胃不和：腹痛・腹鳴・下痢・食欲不振・軟便傾向、腹直筋の緊張、舌苔は薄白、脈は弦緩

## 【日本漢方の適応症】

体力中等度で、胸脇部に重苦しさがあり、ときに頭痛や肩背がこわばる傾向がある

↓

虚実：実証 随伴症状（気血・臓腑弁証）：肝気鬱結（胸脇苦満、憂うつ）、肝気不和（腹痛、食欲不振）

次の諸症：腹痛、側胸部痛、神経痛

↓

主症状（現代病名）：腹痛、神経性胃炎など

【類似処方】※太字は柴胡疏肝湯と共通生薬

☆四逆散（柴胡・枳実・白芍・炙甘草）

不安、不眠、イライラ、胸脇苦満があつて、抑うつ感、月経周期が一定しない、月経痛など

☆加味逍遙散（柴胡・白芍・炙甘草・当帰・蒼朮・茯苓・薄荷・生姜・牡丹皮・山梔子）

イライラ、胸脇苦満、月経周期が一定しない、月経痛にのぼせ・ほてり・口渇がある

## 【合方】

食欲不振、元気がない、軟便傾向が強ければ六君子湯、のどの引っかかりがあれば半夏厚朴湯、肝胆湿熱がある場合は茵陳蒿湯を合方する。